



淡路島まるかじりツアー

4月3日(日) ~ 4月5日(火)

IN 国立淡路青少年交流の家

	午前	午後	夜
1日目	バス移動	お香作り	仲間作りゲーム
2日目	地引網体験	野外炊飯	キャンプファイヤー
3日目	焼き板体験	施設を出発、解散	

一日目：淡路島にバスで向かう道中、緊張はあったもの特に激しい人見知りもなく、皆和気あいあいでした。到着すると、少し風邪が強かったですが、外で昼食をとり、時間の余りグループで遊んでいました。午後からは『お香作り』をしました。関西のお香のほとんどが淡路島で作られていると知り、一気にみんなの淡路島への興味が高まりました。初めは型通りに作っていましたが、徐々に改良を加え、個性豊かなお香ができました。夕食後は仲間作りゲームをしました。本来沢山のゲームを通してお互いを高めあっていくものですが、既に仲間意識は高く、その意識はグループの枠を越えようとしているほどでした。



二日目：午前中は今回の一番の目玉イベント『地引き網』を行いました。初めに地元漁師さんの話を聞き、網が仕掛けられるところを見学しました。そして、皆の力を一つにして網を引き上げます。しかし風が強く、潮の流れも早く、なかなか引けません。一度に5cmほどしか引けず、苦戦を強いられましたが、声を出し、軍手がビショビショになりながらも、一生懸命に引っ張る姿は輝いていました。皆の真剣さが伝わってきました。そして引き上げた先に捕まっている魚を見ることで大興奮です。カワハギにクロダイが沢山捕れました。普段なら生きた魚を持つのにおそらく抵抗するであろうですが、この時ばかりはみんなこぞって魚を掴み、写真を撮っていました。戻ってきてから、捕った魚を調理しました。タイは骨が固く、切れないので、腹を開き、内蔵を取り出す手伝いをしてもらいました。カワハギは皮を剥ぎ取り、頭を落とす作業をしてもらいました。他に焼きそばも作ったのですが、魚の方を皆美味しく食べていたように思われます。片付けを済ませ、夜はキャンプファイヤーを行いました。もうこの頃には全員が打ち解けあっており、笑いあい、歌いあい、踊りあい。本当に有意義な時間を過ごせました。



三日目：朝から早々と掃除を済ませ、思い出を残すため、『焼き板』を作りました。焼けた過ぎ板のすずをこすり落とし、ペンにて思い出を書きました。淡路島の思い出を文字で表したり、絵で表したり、中には仲間が一番の思い出なので、それを書いている方もおられました。グループだけではなく、他のメンバーの名前も欲しい要望もあり、本当に仲の良いメンバーでした。昼食後はギリギリまで皆で遊び、帰りの車内も最後まで盛り上がっていました。心から楽しんでいただけたと思います。



<キャンプ総括>

私が印象に残っているのは、やはり魚を自分たちで捌いた光景です。今回の参加者はどちらかといえば落ち着きがなく、常にソワソワしているように感じました。私は当然魚でも遊ぶだろうと思っていました。野外炊飯の前にしっかりと食べ物について話をした上で取り掛かると、誰一人ふざけずに、拒否をせずに調理を行っていました。参加者のほとんどが(おそらく全員だと思います)、魚を調理するのは初めてだったでしょう。それでも必死に皮を剥いたり、鱗を落としたり、内蔵を手で引き出したりしていました。最中に魚が跳ねると、「ギャー」と叫んでいましたが、それは正直な感想だと思います。そこから学ぶ事は沢山あります。野外炊飯というキャンプでは当たり前のプログラムでも内容や話し方によって、ここまで変わるものだと実感しました。だからこそ、普段魚が嫌いでも、残さず完食できたのでしょう。この体験は今後も行っていきたいと思いました。(竹中 哲郎)